

## 完了評価調書

整理番号	13	研究課題名	食中毒細菌における遺伝子パターンの比較
研究目的	<p>食中毒事例から分離された菌株について AFLP、PFGE、RAPD 法等の分子疫学的手法を用いて遺伝子パターンの解析を行い、細菌性食中毒における感染経路の特定および再感染予防等に関する検討を行う。</p>		
研究の成果	<p>今回、サルモネラ、大腸菌、腸炎ビブリオおよび黄色ブドウ球菌の集団食中毒事例について PFGE,RAPD 法を用いて遺伝子パターンの比較を行った。その結果、集団食中毒事例において PFGE、RAPD 法を用いることにより、同一感染源からの感染であるか否かを推測することが可能であった。</p> <p>なお、短時間で結果が必要である場合には RAPD 法が有効であることが示唆された。</p> <p>また、サルモネラ・エンテリディスによる 1 事例において、食材由来菌株からも同様のバンドパターンを示す結果が得られたことから、PFGE 法は食中毒原因食材の推定にも有効であった。</p>		
成果の普及・活用方法	<p>集団及び散発食中毒事例において、泳動パターンを比較解析し、感染経路を迅速、かつ正確に解明するために活用できるようにした。</p> <p>また、他県で得られた泳動パターンと比較することにより、大規模食中毒発生時の感染経路の解明に活用する。</p>		
残された課題	<p>PFGE、RAPD 法のみでは同一感染源からの感染であるか否かを推測することが困難である事例も報告されていることから、更に遺伝子パターンの解析に有効であると報告されている AFLP 法を併用して食中毒の疫学的解析について検討していきたい。</p>		